



藤田医科大学 羽田クリニック
リプロダクションセンター

羽田から日本の最先端不妊治療へ

次世代医療の常識を創る。

藤田医科大学 羽田クリニックでは、「次世代医療の常識を創る。」を目標とし、当関連大学の研究者と医療機器を提供している企業が最先端の医療やその周辺機器研究を行う施設です。

日本の最新不妊治療への扉

リプロダクションセンターでは、従来の治療法に加え、基礎研究に基づく最先端の知見を取り入れた「再生医療」など、日本の最新不妊治療を提供します。



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC



リプロダクションセンター 治療内容

- ・ 栄養学に基づいた妊娠できる身体を作るための

“プレコンセプション” 検査

- ・ 一般不妊治療（不妊スクリーニング検査、タイミング療法、人工授精）
- ・ 高度生殖補助医療（体外受精・顕微授精）

- ・ 高度男性不妊治療

日帰り精索静脈瘤手術、顕微鏡下精巣内精子採取(micro-TESE)

- ・ 反復着床不全、難治性不妊患者への検査・治療

- ・ 再生医療の不妊治療への応用

多血小板血漿(PRP)や間葉系幹細胞の子宮・卵巣への投与

- ・ 最新機器を用いた日帰り手術

子宮内膜ポリープ、粘膜下筋腫の経頸管的手術

- ・ 卵管鏡下卵管形成術

卵管が閉塞している場合でも、術後は自然妊娠が望める可能性

- ・ 卵子凍結

医学的適応（抗がん剤や免疫抑制剤の投与前）

社会的適応（未婚女性の将来への備え）



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC



羽田クリニックの不妊治療

01

羽田に位置した利便性の高い立地

- ・ 羽田空港に隣接した立地のため、日本に到着後すぐに治療開始が可能
- ・ 診療日以外には、羽田空港から日本各地へショートトリップが可能
- ・ 治療と同時に、日本の四季を堪能し、精神的なリフレッシュも！

02

最先端の技術と安全性

- ・ 最新の「患者とり違え防止システム」を採用
- ・ 大切なあなたの受精卵・卵子を最新の技術で確実に保存します

03

卵巣機能に応じたきめ細やかな不妊治療

- ・ 卵巣機能には個人差があり、お薬に対する反応性はさまざま
- ・ 患者様の卵巣機能に応じた、排卵誘発法を選択
- ・ 採卵できる卵子数に応じた料金設定で、
どんな方でも適切な卵子凍結が可能

04

「再生医療」を用いた不妊治療

- ・ 卵巣機能が低下した方にも、「再生医療」を利用することにより、
凍結できる卵子数が増える可能性があります。



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC

リプロダクションセンター施設紹介

完全予約制の診療体制

診療は完全予約制であり、お待ちいただく時間を最小限に。

待合室は広々とした空間ですが、プライバシーに十分配慮し、設計ビジネスブース(コンセント&WIFI)、個室の待合室も完備。



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC



ゆったりとした診察室



快適かつ安全に診察・採卵を実施

最新設備の採卵室



最新の培養設備を完備



日本の最新技術を駆使した、培養・凍結を実施



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC

“卵子凍結”は 未来のあなたへの贈り物

あなたの生活に今必要な“卵子凍結”

卵子凍結とは、将来の妊娠に備えて、事前に未受精卵子を凍結しておくことです。

女性の卵巣機能は加齢とともに“老化”し、卵子の数と質の両方が低下し、徐々に妊娠しにくくなります。

若い年齢の今、卵子を凍結することで、高い妊娠率を生涯維持することが可能になるのです。

☐ 将来的には子供がほしい

☐ 今は仕事が忙しいし、キャリアアップしたい

☐ 将来不妊に悩むのはイヤ

卵子凍結は
そんなあなたの不安を解消するための治療です



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC



卵子凍結に必要な卵子数とは？

年齢によって、妊娠しにくくなるため、これまでの不妊治療の成績から、1人のお子さんを得るために必要な卵子数は以下のように推計されています。

年齢	必要な卵子数
30～34歳	約11個
35～37歳	約14個
38～39歳	約17個
40～41歳	約18個
42～43歳	約28個
44～45歳	約53個

複数の卵子を得るためには、排卵誘発が必要

卵子を複数育てるために、排卵誘発剤の内服・注射を行います。

注射は、看護師が十分に指導した上で、基本的にはご自身で実施していただきます。

細径のマイクロファインニードルを用いて、注射の痛みを最小限に抑えます。

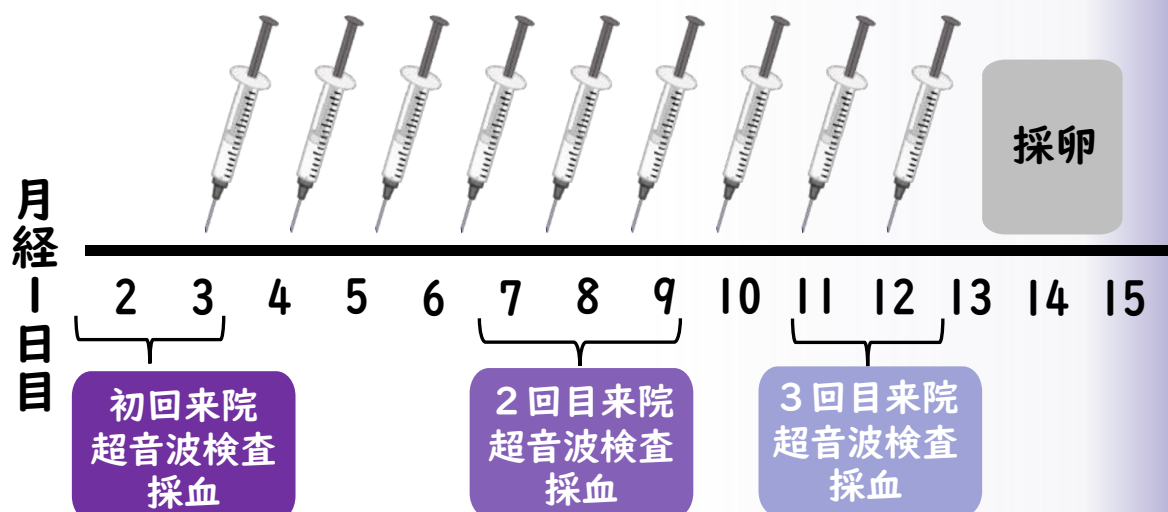
注射を4～5回打っていただいた後に来院していただき、卵胞の発育状況を超音波検査とホルモン採血で確認し、採卵日を決定します。



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC

排卵誘発剤の投与スケジュール

月経3日目より毎日注射が必要になります(原則自己注射)



卵子凍結の採卵

採卵当日は、朝9時に来院していただきます。

静脈麻酔を併用し、眠っている間に卵子の採取が可能です。

採卵後はベットでゆっくりお休みいただけます。

通常は、午前中に診療が終了します。

(午後までお休みいただくことも可能です。)

採卵後は診察し、問題がないことを十分に確認してからお帰りいただきます。



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC

卵子凍結のスケジュール

**初回来院
(治療開始)**
月経開始1～3日目

来日したその日からでも治療開始が可能です*。

初回来院時に、問診・超音波検査・採血を行います。

* 月経期（3日目まで）に来院いただき、検査結果が条件を満たせば、当日から治療開始も可能です。
また、どうしても時間が取れない方には月経期以外の時期からの治療開始も可能です
（“ランダムスタート法による採卵”）

診察2回目
月経開始8～9日目

採血と超音波検査を行い、卵胞の発育状態を確認します。

（時間が取れない場合には省略も可能）

診察3回目
月経開始11～12日目

採血と超音波検査を行い、卵胞の発育状態を確認し、採卵の日程を決定します。

採卵当日
月経開始13～14日目

朝に来院していただき、採卵を行います。

午前中にはお帰りいただけます。
結果は後日、メールでお知らせも可能



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC

採卵にともなう留意点

以下のような、採卵にともなうリスクがあります。

・出血

穿刺した卵巣から出血する場合があります。

通常は自然に止まりますが、ごく稀に手術による止血が必要となる場合があります。

・感染

採卵後に感染による発熱、腹痛をきたす場合があります。当院では予防的に抗生剤を内服していただきます。

・他臓器損傷

穿刺時に、膀胱や腸を穿孔し、損傷する場合があります。

・卵巣過剰刺激症候群

採卵後、卵巣が腫大し、重症の場合、腹水や胸水が貯留し、呼吸困難などの症状を引き起こすことがあります。

・麻酔薬に対するアレルギー

採卵の際に用いる麻酔薬にアレルギーを起こすことがあります。

＊治療中は当院で対応いたしますが、帰国後に腹痛、発熱などの症状が生じた場合には、すみやかにお近くの婦人科診療を行っている医療機関をご受診ください。



FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC





FUJITA HEALTH UNIVERSITY
HANEDA CLINIC

